

教室で使える グループワーク



教室で使えるグループワーク

平成 29 年 (2017 年) 3 月発行

制作 / 札幌市教育委員会

市立高校外部の専門人材活用推進委員会

表紙デザイン、イラスト、編集 : 栗田マサキ



本冊子は、文部科学省の初等中等教育振興事業委託費による委託事業として、札幌市教育委員会が実施した平成 28 年度「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。したがって、本冊子の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

はじめに

ヒトという種はグループワークによって生き残ってきました。集団で生活することでヒトは他の種よりも豊かに複雑に進化し、社会的な能力を高めてきました。

ヒトは集団で生活することで敵から身を守り、集団で狩りをし、強い獲物を倒し、集団で農耕することでより多くの作物を得てきました。集団で戦うことで部族を守り、そのテリトリーを広げたりもしました。

ヒトは多様な遺伝的特性を持っています。多様な特性が集まり、補い合いながら生き残ってきました。ヒトが複数集まれば、同じ個体はありません。集団で話し合うことで、一人では考えつかないアイデアや理論を生み出し、それがまた集団の強みとなっていきました。

政治・経済・芸術・科学・・・私たちはあらゆる分野でグループワークによってものごとを進めてきました。どんな先進的な理論や技術も一人で創り出すことはできません。先人たちの理論や技術をもとにして、レンガを積むように少しずつ高く積み上げてきました。見かけ上は一人で完成したように見える仕事や作品も、時空を超えたグループワークです。

教室はヒトの進化と歴史を体験する場です。子どもたちはグループワークを通し、先人の知恵に学び、互いを知り、科学的に深く考えることで、より高い視点と能力を獲得していきます。

この冊子は子どもたちがグループワークの楽しさや深みを体験する一助になるようにつくられました。次代を担う子どもたちが世界の人たちと軽やかに力強くグループワークができるスキルが育つように願っています。

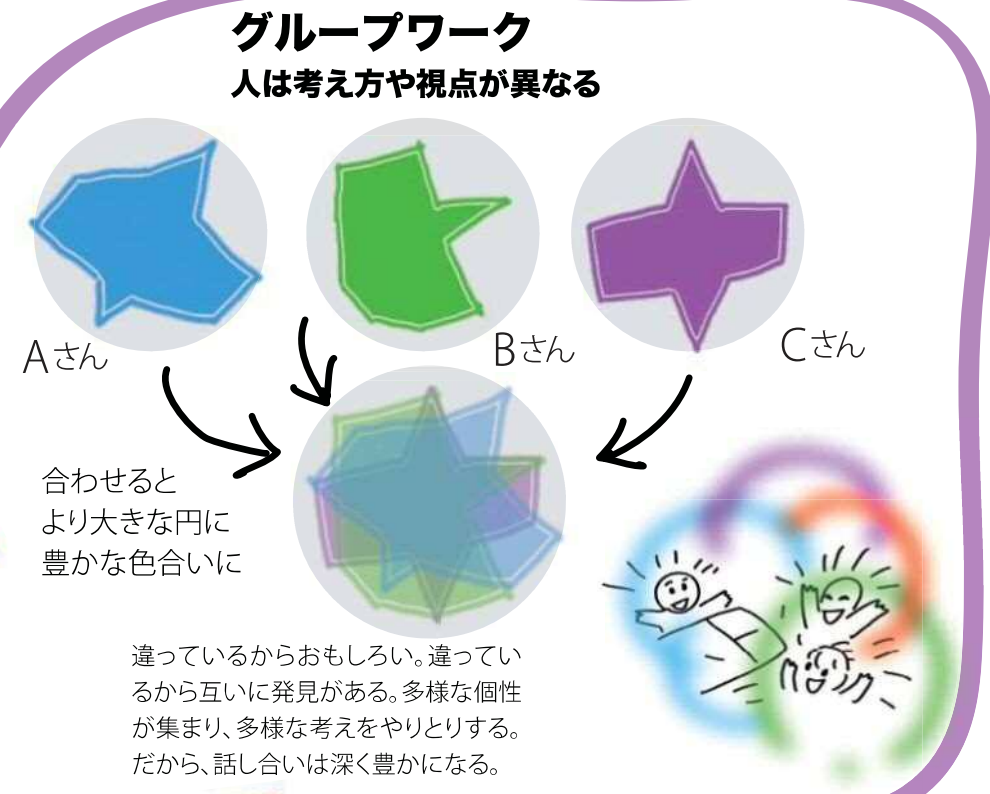
この冊子では、教室でグループワークするときにありがちなケースを八つ取り上げ、それに対して**チェンジ!!**することで**グッドジョブ!!**になるような提案をしています。この冊子をお役立ていただき、グループワークを楽しく、深く、有意義に**チェンジ!!**してください。

もくじ

ケース 1	グループワーク意義がわかれば活発に	・・・4
ケース 2	アクティビティやって始まる話し合い	・・・6
ケース 3	インクワイアリーで ^{はてな} ?集まり論点明確	・・・8
ケース 4	バラバラな要素まとまるコンセプト	・・・10
ケース 5	^{はてな} ?に向き合うクリティカルシンキング	・・・12
ケース 6	過去を見て未来を開くリフレクション	・・・14
ケース 7	考える人を育てるオープンエンド	・・・16
ケース 8	意識してバランスとれば楽しい議論	・・・18
	グループワークの流れ	・・・20
	あとがき	・・・22

ケース
1

グループワーク 意義がわかれば活発に



違ってからおもしろい。違って
いるから互いに発見がある。多様な個性
が集まり、多様な考えをやりとりする。
だから、話し合いは深く豊かになる。

グループワークって
実は考えを深める
すごい方法なんだ
チェンジ!!



ケース 2 アクティビティ
やって始まる話し合い



特性をつかまず
役割を決めると
話が進まない

ACTIVITY(アクティビティ)
楽しみながら相互理解

例えばヘリウム スティック

3~8人のグループが課題に取り組む前、互いの特性を知る方法

軽い棒を用意。グループを二つに分けて、スティックを挟み向かい合って立つ。次に、両手の人差し指の上にスティックを置く。その状態で徐々にスティックを降ろし、最初に床まで降ろすことができたグループが勝ち。全員の人差し指がスティックに触れていることがポイントで、誰かの指がスティックから離れたら最初の高さからやり直す。



あら不思議。最初のうちは降ろそうとしても棒は浮いてしまう。グループ内でのルール化、コミュニケーション、声かけ、目配せ、などが必要。その過程で個々の特性をお互いを知ることができる。

ACTIVITY
でも やってみるか!!

チェンジ!!

楽しい雰囲気
で話が
動き出した

グッド
ジョブ!!



ケース
3

インクワイヤリーで はてな ? 集まり論点明確

言いたいことが
あるのに
発言が出ない



もっと気楽に
INQUIRY!!

チェンジ!!



INQUIRY(探究)インクワイヤリー

内側へ ラテン語のquery
問い・質問・疑問

とにかく問う 気楽に。
自分の中の
「いつ?」「どこで?」「誰が?」「何を?」
「なぜ?」「どのように?」を粘り強く
見つける。そして・・・
机の上にみんなの持っている?????を
全部並べてみる。



探究

漢字だけを見ると重たくなってしまいかも。
難しく考えず、気楽に、どんどん?を出す。

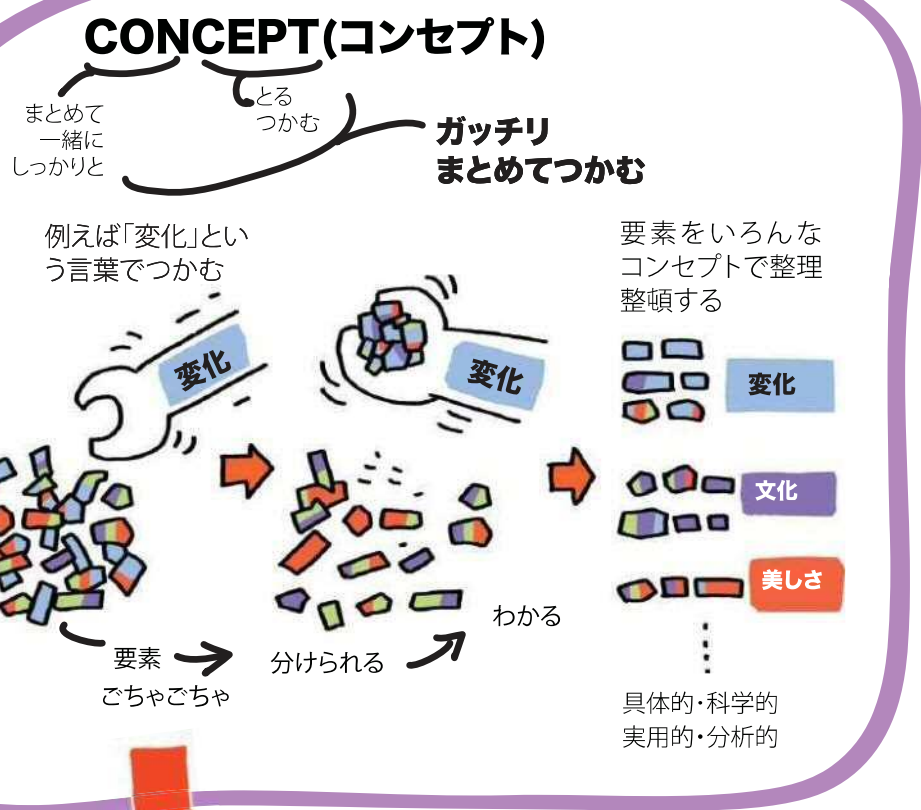
ほら、
なにかが見えてきた

話し合う
ポイント
が見えてきた

**グッド
ジョブ!!**



ケース 4 バラバラな要素まとまるコンセプト



CONCEPTで 話を 整理してみよう

チェンジ!!



ケース
5

はてな? に向き合うクリティカルシンキング



CRITICAL THINKING (クリティカルシンキング)

批判的な
きわどい、危ない
限界の、ギリギリの

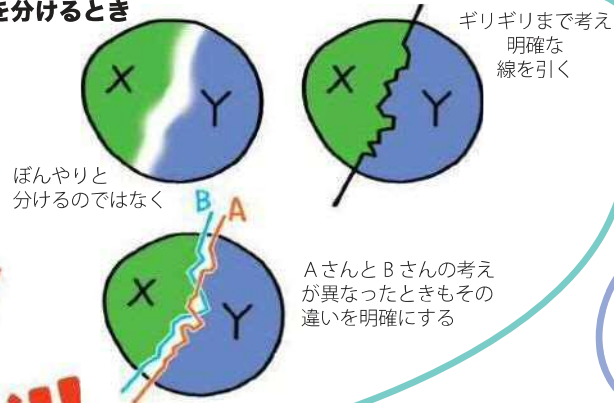
考えること

語源:ギリシャ語
criticus=cri→krei
分けること、ふるいにかける

つまり、ギリギリまで
わけて考えること

批判的思考と訳すと
否定的な「悪い、危ない」
という意味を拡大してしま
い、感情的な意味も加わ
り、本来の意味から遠ざ
かる。語源は「冷静に
判定・評価すること」

例えばXとY
を分けるとき



CRITICAL THINKING
が使えるよ!!

チェンジ!!



より深く
より明確な
議論ができた

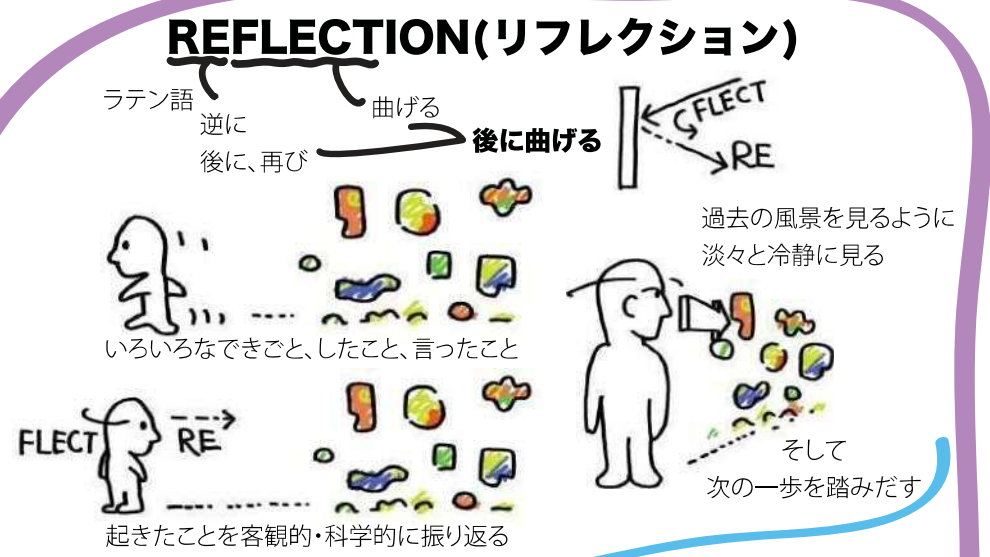
グッド
ジョブ!!



ケース 6 過去を見て未来を開くリフレクション



感情が支配
議論が止まる



ちょっと待った
ここは
REFLECTION!!
でしょ!!

チェンジ!!

「REFLECTION→振り返り→反省→ダメなことを指摘」ではない

また... 反省 だな..



来た道を
辿れば
筋が見えてきた

**グッド
ジョブ!!**



ケース7 考える人を育てるオープンエンド

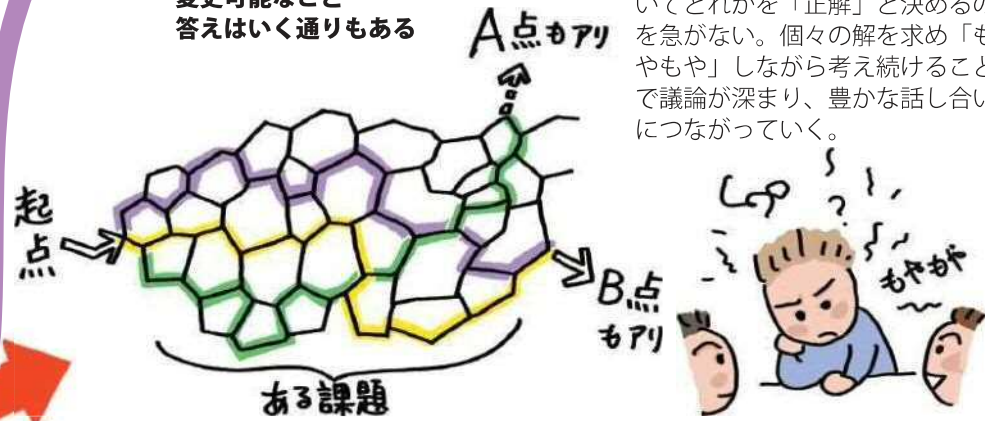


OPEN END(オープンエンド)

開いた、あいた 終わり、はじっこ

終わりがあいていること
変更可能なこと
答えはいく通りもある

さまざまな言葉、意見、論理においてどれかを「正解」と決めるのを急がない。個々の解を求め「もやもや」しながら考え続けることで議論が深まり、豊かな話し合いにつながっていく。

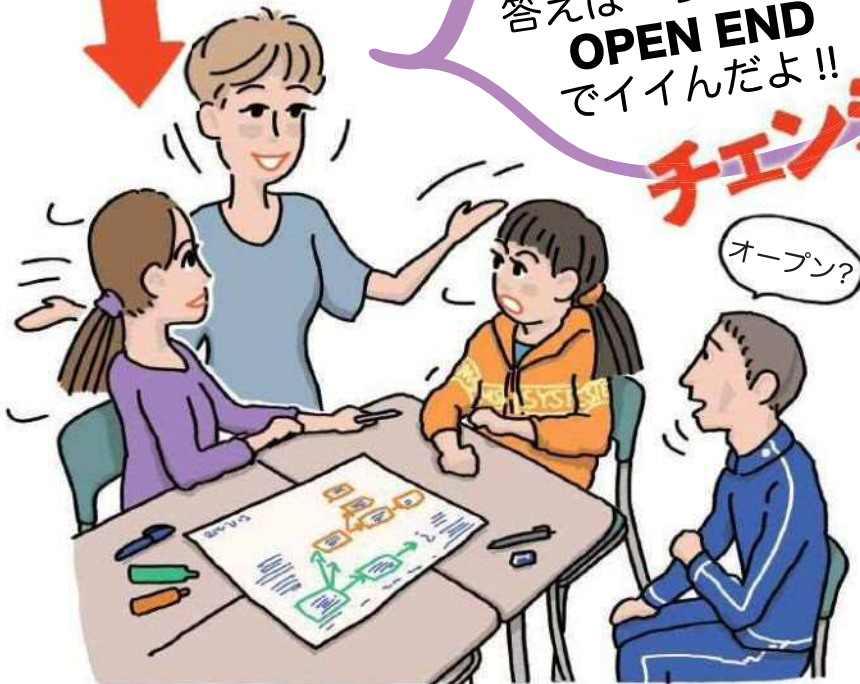


多様な意見や経験、回り道をするという過程そのものを大切にする考え

一人の?はグループも成長させる。

答えは一つじゃない
OPEN END
でイんだよ!!

チェンジ!!

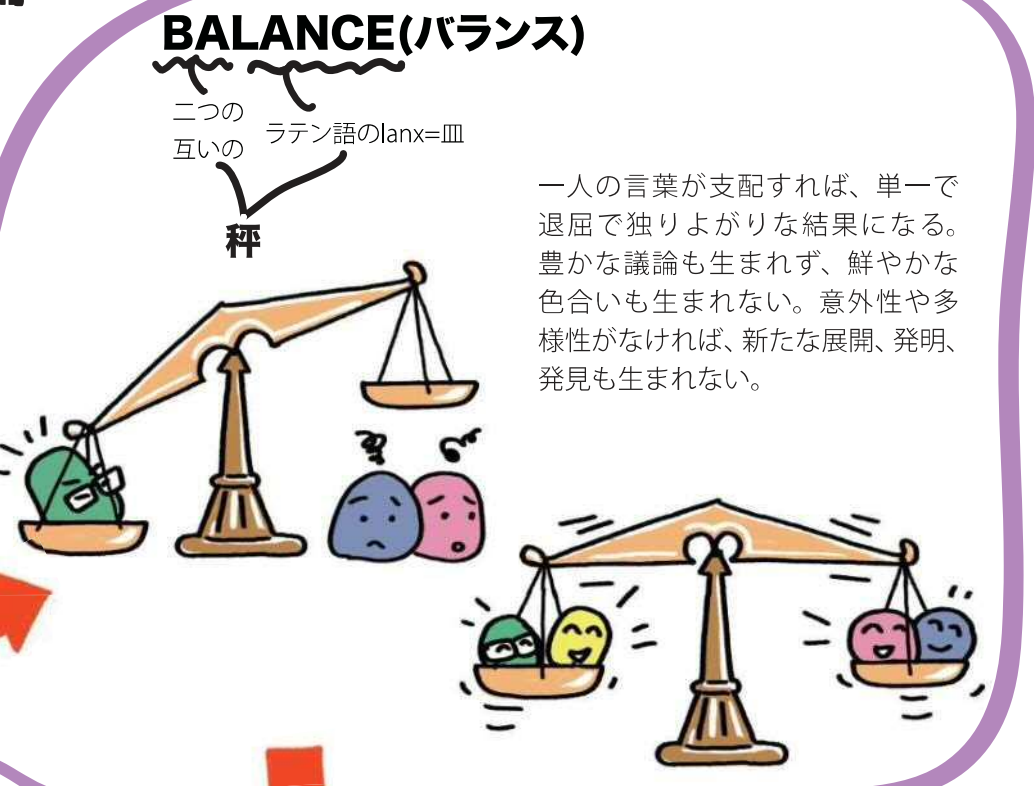


楽しく考え
深い話し合いに

**グッド
ジョブ!!**



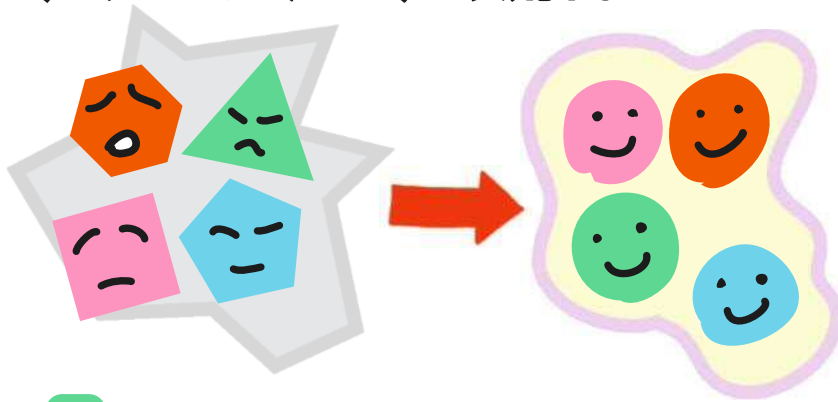
ケース8 意識してバランスとれば楽しい議論



楽しくやってる？
バランス!!
 だよ
BALANCE!!
チェンジ!!

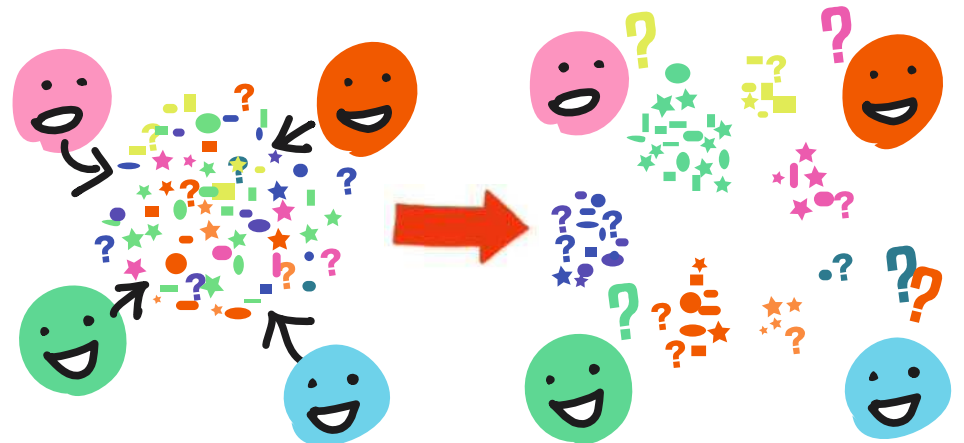


グループワークの流れ



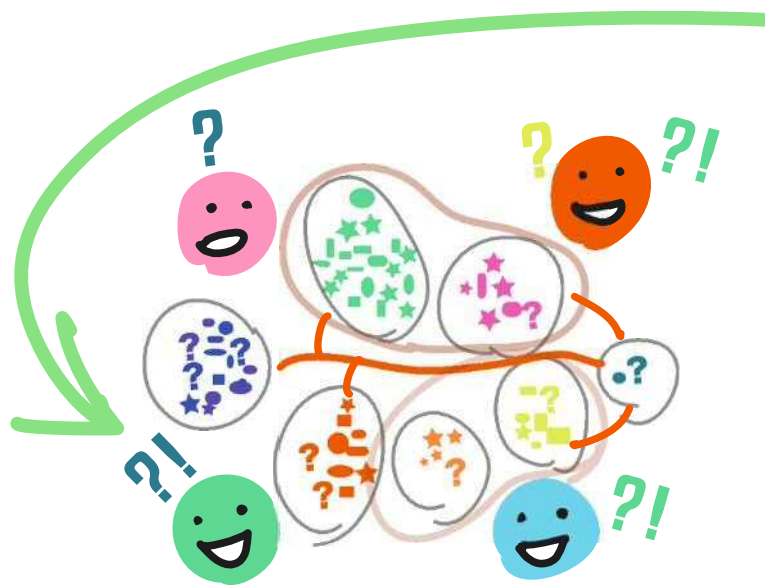
ケース 1 グループワーク意義がわかれば活発に

ケース 2 アクティビティやって始まる話し合い



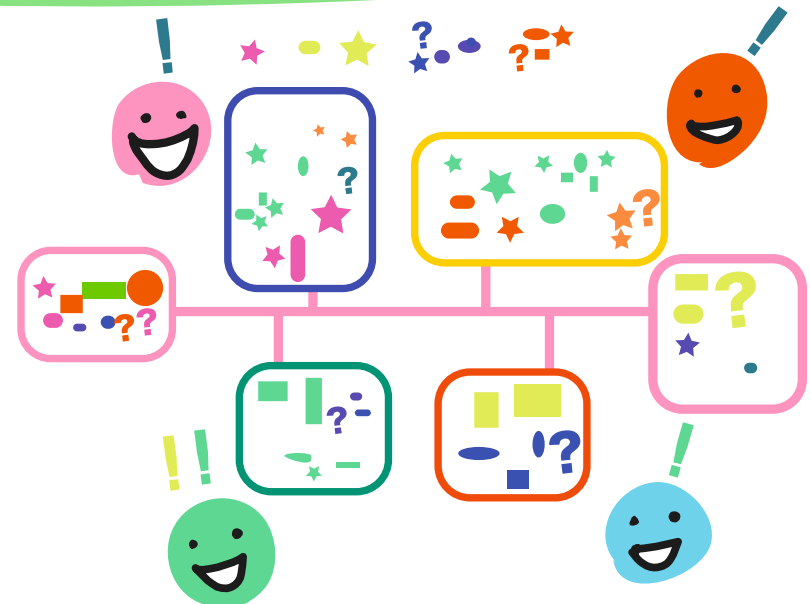
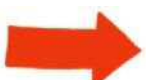
ケース 3 インクワイヤリーで
集まり論点明確

ケース 4 バラバラな要素まとまる
コンセプト



ケース 5 ^{はてな}?に向き合うクリティカルシンキング

ケース 6 過去を見て未来を開くリフレクション



ケース 7 考える人を育てるオープンエンド

ケース 8 意識してバランスとれば楽しい議論

あとがき

この「教室で使えるグループワーク」は市立札幌開成中等教育学校の実例をもとにつくられました。ここでは国際バカロレア（以下 **IB**）のミドル・イヤーズ・プログラム（**MYP**※1）を活用した課題探究的な学習を行っています。その導入にあたり、教師は国際バカロレア機構が主催する公式ワークショップに参加しています。本冊子でとりあげた八つのケースは実際にグループワークで生徒と教師が直面したことばかりです。教師は「チェンジ」によって生徒たちに働きかけ、その結果、グループワークは積極的になり、より深い話し合いになっていきます。

IBの目的は「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成※2」です。**IB**は1968年国際標準のプログラムとしてジュネーブで開発され、その後、3歳～19歳までの総合的な教育プログラムに発展し、年齢層に分かれた四つのプログラムとして提供されています。現在、世界で4600以上が**IB**認定校としてそのプログラムをとり入れています。日本ではインターナショナルスクールも含め40校程度（2017年2月現在）ですが、文部科学省では国内の**IB**認定校を200校にすることを目指しています。

IBを用いた学習の場面では一つの正解を求めず、一人一人の多様な考え方、見方を大切にします。そして子どもたちや教師が経験した「知」にもとづく探究（インクワイアリー）を重要と考えます。疑問や気づいたことを出しつくる「探究」、出てきた多くの要素をつかみ取り整理する道具「コンセプト※3」。これらは**IB**の手法による授業の中で繰り返し使われ、子どもたちはこの実用的で科学的な方法で自ら学習に向き合うようになります。

例えば、本冊子の中のクリティカルシンキング（批判的思考力）は**IB**が定める学習の方法=**ATL**※4の「思考」の一つに含まれ、学習の質を高め、子どもたちの視野を広げるスキルです。**ATL**にはその他「コミュニケーション」

「社会性」「自己管理」「リサーチ」があり、これらを身につけることで生涯にわたって自律的に学び続ける力が無理なく養われていくのです。

また、子どもたちがさまざまな場面で意識するのは、生きる上で必要なスキル、視野、姿勢を言葉にした「**IB**の学習者像※5」です。教師、保護者も学習者であり、常に「学習者像」に自己を照らし合わせ、精神的・内面的な成長が求められます。とりわけグループワークにおいては重要な指針で、子どもたちが、表面的で散逸した知識集めから、現実的、科学的、構造的な学びへと深化するためにはなくてはならないものです。本冊子の「バランス」は学習者像の中の「バランスのとれた人」、「リフレクション」は「振り返りができる人」にあたり、他の学習者像も本質的なものばかりです。

本冊子で紹介したグループワーク活性化のヒントは授業を変えるための、小さなきっかけに過ぎないでしょう。しかし、子どもたちと教師、保護者が一緒に、その変化を楽しみ、わくわくして、安心して学習に向き合えばやがて**IB**の目指す「平和な世界を築くこと」につながると確信しています。

平成29年（2017年）3月
札幌市教育委員会
市立高校外部の専門人材活用推進委員会

※1: 国際バカロレア機構。(2016). MYP: 原則から実践へ. カーディフ: 国際バカロレア機構.

※2: 国際バカロレア機構, 2016

※3: コンセプト: MYPの中で定義されるキーコンセプトは16。美しさ、変化、コミュニケーション、コミュニティ、つながり、創造性、文化、発展、形式、グローバルな相互作用、アイデンティティ、論理、ものの見方、関係性、システム、時間・場所・空間

※4: ATL=Approaches to learning: 学び方を学ぶのに役立つ「学習の方法」として10のスキルが下記の5つのカテゴリーに分類されている。Communication, Social, Self-management, Research, Thinking

※5: IBの学習者像: 探究する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念をもつ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、バランスのとれた人、振り返りができる人